

## 新型コロナウイルスワクチン副作用の救済

### 新型コロナウイルスワクチンの副作用

新型コロナウイルスワクチンの副反応としては、接種後に注射した部分の痛み、疲労、頭痛、筋肉や関節の痛み、寒気、下痢、発熱等があげられますが、大部分は、接種後、数日以内に回復しています。しかし、極めてまれではありますが、心筋炎、脳炎や神経障害などの健康被害を伴う重篤な副作用もあります。直後にアナフィラキシーショックが起きれば死に至る場合もあります。

### ワクチンコールセンターの開設

長崎県や各市町では、これらの副作用の相談と調査のためにワクチンコールセンターを開設し、24時間電話で受付を行っています。頻度の高い、軽度な副反応については接種した医療機関や、かかりつけ医での受診を勧めています。そこで専門的な治療や検査が必要と判断された場合は、県が協力を依頼している8医療圏の計14病院を紹介し、さらにまれな副反応であれば専門的な医療機関（1か所）を紹介する仕組みを作っています。

### 重篤な健康被害には保障

万が一、死亡したり後遺症が残るような健康被害を生じた場合には、予防接種法に基づき給付を受けることができます。その様な場合は、接種を受けた時に住民票を登録していた市町に相談してください。ワクチン接種による健康被害であったかどうかを個別に審査し、ワクチンによる健康被害と認定されればその程度に応じて保障がなされます。

### ワクチンで重症化が減少

新型コロナウイルスの流行が始まってから3年近く経過しようとしています。この間、県内では24万人を超える人が感染し、300万人を超える人が亡くなっています。現在、第8波の流行期に入っています。当初に比べ1日当たりの感染者の数は増えていますが、重症者数は減少している傾向があります。その理由はウイルスが変異し弱毒化したことでもあります。ワクチンの接種が広く行われたことも大きな要因と考え

られます。しかし、基礎疾患のある人や高齢者の感染者増加で死亡者数は増加傾向にあります。

感染者を診療していると、ワクチンを打った人の方が、症状が軽く、症状消失までの期間が短い印象があります。

### ワクチン接種を推奨します

新しい薬も承認され、当初の流行に比べればウイルスの脅威は減ってきたとは言え、まだまだ予防をないがしろにできる段階ではありません。ワクチン接種は自身を守り、感染の流行を抑える最大の武器です。副反応に対する措置は万全の体制を敷いて接種に望んでいます。医師会としましてはメリットが大きく、接種することを推奨しております。



✈️ 空港から見える 🌅 初日の出 🌅

### 【医心伝心】

長かった正月休みも終わり、日常の生活が戻ってきました。今年の目標は何でしょうか？ある調査結果によるとお正月にたてた目標の達成率は1割だそうです。1年を振り返るときに充実した年であったと言えるように悔いなく過ごしたいものです。新しい年が皆さまにとって実りの多い1年となりますようにお祈り申し上げます。



**看護師への復職を考えている方へ**  
”あなたの笑顔が必要です！”

潜在看護師の復職支援研修を行っています。  
大村市医師会にご相談ください。